

アフリカ(セネガル・ケニア)における消化器内視鏡トレーニング拠点の設立

- ✓ アフリカにおいてがんは非感染性疾患死因の約2割に及び、このうち約1/4を占める消化器がんは重要な医療課題である。
- ✓ 消化器がんの診断・治療のための内視鏡技術の習得には実技指導を含む研修が不可欠である一方、アフリカでは内視鏡研修へのアクセスが不足しており、内視鏡普及の律速になっている。
- ✓ 日本は内視鏡の手技や機器性能に優れ、富士フイルムはこれまでも日本の医療機関と共に研修機会を創出・提供してきた。
- ✓ セネガルのプリンシパル病院、ケニアのアベニュー病院からも、同様の取組みを切望する声も届いている。
- ✓ 本事業では、相手国において内視鏡研修を自立的かつ継続的に実施していくためのトレーニング拠点設立を目的とする。
- ✓ 本事業の目的を達成するために、以下2点を実施する。
 - ー セネガル：日本の内視鏡医と共に現地で内視鏡手技の研修を行い、トレーニング拠点の中核となり得る医師を育成する。
 - ー ケニア：現地の内視鏡関連医療従事者に対し、富士フイルムメンバーが日本の内視鏡手技の流れを教育し、トレーニング拠点の重要性理解を強化する。
- ✓ 上記を通じ、2025年度中にセネガルでトレーニング拠点を設立し、ケニアでは将来的なトレーニング拠点設立に向けた協議を開始する。

